



海外

稲門会の躍動

Overseas TOMONKAI

登録稲門会 検索

現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。
海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

会長メッセージ

ブラジル稲門会会長の天野です。1970年応用化学科を卒業して、30歳の時からブラジルに滞在し41年になります。ブラジル稲門会の特徴はブラジルに移住した長期滞在者が多いことです。早稲田大学海外移住研究会(移住研)の先輩方が多くおられます。長期滞在者約70人、短期滞在者約80人の構成です。駐在員の中にはブラジルが気に入って、転職してまでブラジルに居つく人もたくさんいます。私もその1人です。

ブラジルの魅力は人に区別をつけないこと、サンパウロの気候がとても良いこと、日系人の

長い移住の歴史から日本人に対する信頼が大きいこと、日本食がそろっていることです。

人に区別をつけないことから、テロなどの組織的犯罪がありません。もちろん強盗などは日本に比べて多いのですが、人種差別はほとんどありません。家がなく橋の下で楽しく夕食を準備する家族、自家用ジェット機で飛び回る人たち、人と比べないので、みんなそれぞれ幸せです。皆さまも一度サンパウロにお越しください。稲門会で歓迎します。

天野一郎(1970年理工)

会員からのメッセージ

2018年8月24日、ブラジル日本移民110周年記念祭典委員会主催の「笠戸丸表彰」が文協大講堂で行われ、稲門会から相田祐弘氏(1954年理工)、故谷広海氏(1964年政経)、和田好司氏(1965年政経)の3人が表彰されました。これは第一回ブラジル日本移民船の笠戸丸に因み、日系社会の発展や日伯両国の関係強化に顕著な貢献をした方々を称えるもの。12月5日には在外公館長表彰伝達式が行われ、足立操(1975年政経)が表彰、翌6日は秋の叙勲伝達式がサンパウロ総領事公邸で行われ、石井千秋氏(1964年教育)が旭日単光章を受章されました。表彰の様子は下の写真参照。

足立 操(1975年政経)

2018年8月1日、早大野球部一行34人がブラジル移民110周年記念事業としてブラジル野球ソフトボール連盟の招聘で来伯しました。われわれを感動させたのは、そのさっそうたるプレーのみならず、選手が旅費を自弁し

てまで祝いに来てくれた、その心意気にありました。早大野球部は5都市で10試合を行い、全勝。各球場で、第1試合は地元選抜チームと、続いてブラジル選抜チームとの2試合を行いました。試合の合間には地元のご婦人方による昼食が振る舞われ、選手たちには大変好評だったようです。

富田博義(1963年法学)

当稲門会では毎年、サンパウロ三田会と野球、テニス、ゴルフの早慶戦を実施しています。2018年は野球(勝)、テニス(勝)、ゴルフ(引き分け)の2勝1引き分けと三田会に勝ち越しました。このようなスポーツイベントやその後の懇親会を通じ、稲門会員同士だけでなく三田会の皆さんとも年代を超えた交流や人脈づくりを図り、公私共に充実したブラジルライフを送ることができています。

伊藤聖治(1990年政経)

Oi! Tudo bem? (やあ、お元気ですか?)
こんな感じで気軽にあいさつする、ラテンアメリカ最大の国・ブラジルにあるブラジル稲門会です! 当会は、戦後の移住が始まっ



2018年8月、早稲田大学野球部歓迎会

ブラジル稲門会について

た1950年代から徐々に校友が参集し、三田会との野球試合などをしていましたが、77年に故若林輝男氏を会長として総数122人で正式に発足しました。東西南北約4,300キロメートル、日本の22.5倍という広大な国土で、現在144人が参加しています。会員は70年代まで行われていたブラジル移民、企業の駐在員、移住者、ボランティア、留学生などで、年齢も90歳近くの大先輩から20代の学生までと千差万別です。

当会の主な活動は年1回の総会と毎年開催される野球、テニス、ゴルフそれぞれの早慶対抗戦、そして、早大関係者の来伯時の歓迎会や日々の懇親会などです。当地の三田会とは日々懇意にしており、良きライバル、良き友人という間柄で相互に切磋琢磨しながら交流の輪を広げています。

ブラジル在住で未入会の方、ブラジルへお越しの方はぜひとも当会へ一声お掛けください。

相田祐弘(1954年理工)

ブラジルの魅力

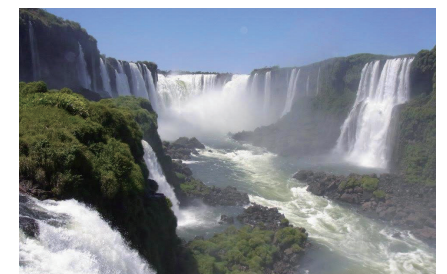
日本の国土の22.5倍を有し、豊かな自然と多様な人種が共存する国、ブラジル。広さと同様に、語り尽くせない魅力があります。

一つは、広大な自然と食の豊かさ。北はアマゾン川や熱帯雨林、アルゼンチンとの国境には世界最大のイグアスの滝など、豊かな自然があります。食べ物も豊富で、特にマンゴーやパイア、グアバなど、日本では手に入りにくい果物が安く手軽に購入できます。

もう一つは、陽気で親切的な国民性。ブラジル人は楽しいことが大好きで、パーティーやお祭りによく誘ってくれます。また、すぐにお年寄りに席を譲るなど、親切的な国民性です。

さらに、ブラジルは世界一日系人の多い国です。日本食の店やレストランが多く、町中で日本語の看板もたくさん見掛けます。毎年7月に行われる「日本祭り」は、世界最大規模。地球の裏側にいながら、日本を最も身近に感じられる国です。

有馬亜季子(2014年人科)



(上)世界三大瀑布の一つ、世界遺産イグアスの滝
(下) 18年サッカーワールドカップでの盛り上がり

相田祐弘氏(右側) 谷広海夫人(右側) 和田好司氏(右側)

足立操氏(左側)

石井千秋氏(左側)

